

# ADVANレーシングタイヤインフォメーション

## 2010年 SUPERGTシリーズ第2戦

2010.4.4

### OKAYAMA GT 300km RACE



横浜ゴム(株)は、フラッグシップ・ブランド「ADVAN」の性能訴求及び企業イメージの向上として、2010年も国内のみならず、海外へも積極的にモータースポーツを支援していく。その活動のひとつであるのが、SUPER GTシリーズ。日本で最も高い人気とハイコンペティションを誇るレースに、ADVANはGT500クラスにおいて、近藤真彦監督率いるKONDO RACINGとのパートナーシップを2010年も継続することになった。HIS ADVAN KONDO GT-Rを駆るのは、ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラと安田裕信の新タッグ。もちろん狙うは年間2勝以上、そして初のチャンピオンである。

HIS ADVAN KONDO GT-Rは、2年連続でシリーズ開幕戦を制するという偉業を成し遂げた。しかも、予選でクラッシュがあったため、10番手スタートだったにもかかわらず激しい追い上げで、また、勝因のひとつでもあるタイヤ無交換策は、ADVANの高性能かつロングライフを実証することとなった。

第2戦の舞台である岡山国際サーキットは、開幕戦の鈴鹿サーキットがアベレージの高いテクニカルコースであるのに対し、同じテクニカルコースであってもアベレージはそう高くない。その違いを考慮して、投入するタイヤには若干の変更が加えられている。特に重視されるのはダブルヘアピンでの追従性。連なる低速コーナーをロスなく走ることが、ラップタイムに大きな影響を及ぼすからである。

このスペックのタイヤは開幕前に行われた合同テストで、ウエット用タイヤも含めて確認済。チームからも高評価を得られている。ただ、ひとつ注意しなくてはならないのは、このコースの路面はレースウィークに入ってからの変化が大きく、練習走行時のインフォメーションを重視し過ぎると、決勝レースにはマッチしないということが多々あること。

そこで過去のデータを活用するわけだが、何より昨年のレースで予選3番手、雨の決勝レースでは優勝と、コースとの相性も良い。40kgのウエイトを積んではいるものの、ひとつでも上の順位を狙い、ランキングトップをキープすることがマストの目標となる。

GT300クラスでは、谷口信輝と折目遼の駆るM7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC7が、ポール・トゥ・ウィンを達成。もはや得意技とも言えるタイヤ無交換策で圧勝となった。2位にもアップスタートMOLA Z、3位にもウェッズスポーツIS350がつけ、ADVANユーザーで表彰台を独占。それどころか、5位までをユーザーが占め、GT500クラスの勝利と合わせて最高のADVAN DAYとしていた。

第2戦に向けて、ベースは鈴鹿で用いられたタイヤのままで、細かい改良は加えられている。コースのレイアウト的に、左側のタイヤが特に厳しくなる傾向があるため、その2本のみレース中に交換というケースが多くなるかもしれない。

このコースでは、コーナリング自慢の車両が強みを発揮しそうだ。昨年も優勝を飾っているウェッズスポーツIS350を筆頭に、前回は早々にリタイアを喫したものの、それがゆえにノーハンデで挑めるアップル・K-ONE・紫電やapr COROLLA Axioも有利にレースを進められるだろう。また、40kgのウエイトを積んでなおM7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC7が、どこまで上位に食い込めるか。また、アップスタートMOLA ZやHASEMI SPORT TOMICA Zも、コースとの相性は非常に良く、引き続きの上位入賞が見込まれている。

その一方で、開幕戦で見せたマッハGOGOGO車検408R、そしてJLOCランボルギーニRG-3の圧倒的なストレートパフォーマンスは、今回もバックストレートで遺憾なく発揮されるはず。なかなか予想は困難なレースになるのは必至ながら、再びADVANユーザーによる上位独占が期待される。



### 2010年 SUPERGTシリーズ第2戦用ADVANタイヤラインアップ

		GT500	GT300
ドライ用スリック	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	3種類 (S, MS, M)	2種類 (S, MS)
	サイズ	Fr 330/710R18, Rr 330/710R17	280/710R18, 280/680R18, 280/650R18
ウエット用レイン	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	2種類 (S, M)	2種類 (S, M)
	サイズ	Fr 330/710R18, Rr 330/710R17	280/710R18, 280/680R18, 280/650R18



## ADVANが2年連続で開幕戦2階級制覇に成功

GT500クラスをHIS ADVAN KONDO GT-Rが制し、GT300クラスもM7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC7が!



### GT500 24 HIS ADVAN KONDO GT-R

ノックダウン方式で行われた予選のセッション2、そこでHIS ADVAN KONDO GT-Rをドライブするジョアオ・パオロ・デ・オリベイラが、まさかのクラッシュ。S字コーナー脇に止まったマシンは、再び動き出したのが信じられないほど、リヤに大きなダメージを負っていた。

決勝までに間に合うのか? そう思ったものも決して少なくないはずだ。そして、たとえ直ったとしても、苦戦を強いられるだろう、とも。しかし、メカニックたちは朝4時までかけて完璧な状態にまで修復。早朝に行われたフリー走行にも臨むことができた。そればかりか、周回を重ねてもタイムダウンが少ないことが確認されてもいたのである。

とはいえ、10番手からのスタートだ、どうあれ苦戦は免れまい。そこにスタート直前から降り始めた雨が味方する。黄砂混じりの雨は路面を極めてスリッピーにし、オープニングラップは上位陣にコースアウトが続出。この厳しい状況をデ・オリベイラは乗り切り、たった1周で7番手に、そして2周目には4番手に浮上する。

#### ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ

「予選では僕が重大なミスをしてしまい、チームにはすごい迷惑をかけてしまった。だから、完璧に修復してくれたメカニックに感謝したい。こういう結果で恩返しできて良かった。それもタイヤや作戦が良かったからだと思うね。次回も雨を期待するよ!」

トップだけは逃げていたが、前の2台には着いていける。9周目のスプーンではバックマーカーをうまく利用して、ついに3番手に!

その直後のセーフティカーランが勢いを削ぐかも、という懸念もないわけではなかった。が、現実とはむしろ逆。その4周のスローペースが、タイヤの温存にもつながったのだ。そこで近藤真彦監督とADVANスタッフは、選択肢のひとつだったタイヤ無交換策を決断する。デ・オリベイラはピットストップをいちばん最後まで伸ばし、34周目にようやく戻ってくる。その時点でトップ。

タイヤを換えずに安田裕信をコースに送り出す様子に、ライバルが「まさか!」と声を上げていたことが容易に想像できる。そして、HIS ADVAN KONDO GT-Rはトップのままレースに復帰、後続に約20秒もの差をつけて。残り18周、安田は安定した走りで周回を重ね、難なく逃げ切り成功。ADVANとともに、KONDO RACINGは再び開幕戦を制することになった。



#### 安田裕信

「予選も練習もタイム的には10番だったのが、終わってみれば優勝ですからね。信じられないというのが本当のところですよ。無交換は朝のフリー走行で、予想以上に持つのが確認できたので、交代の直前に決めました。JP (デ・オリベイラ) の走りを見て、こっちは頑張らなきゃと思いました!」

### GT300 7 M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC7

M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC7を駆る谷口信輝にとって、開幕戦のレースウィークはシビックインターシリーズとのダブルエントリーとなっていた。そのため、SUPER GTの予選1回目を走ってすぐ、シビックの予選を走り、またそのすぐあとにSUPER GTの予選2回目を、という慌ただしさ。だが、それもいい相乗効果になったと谷口は言う。「シビックの方が、よっぽどフラフラして怖いんですよ。逆にGTの方が空力で安定しているから、シビックに乗った後の方が攻めていました。『あれ、怖くないなあ』って(笑)。たぶん130Rなんて速くなっただよ!」

シビックでポールを奪った後、ノックダウン方式の予選で谷口はS1とS3を担当。S1をクリアし、パートナーの折目遼もS2を2番手でクリアする。その力走を目の当たりにして、谷口はさらに奮起。チームにとって6年ぶりとなるポールポジションをプレゼントする。

スタート時の雨は、マシンコントロール能力に定評のある谷口には、まさに恵みの雨となると思われた。事実、スタートダッシュも良く1コー

#### 谷口信輝

「このレースウィーク、シビックとGTにダブルエントリーで、かなり大変だったんですが、どちらもポール・トゥ・ウィン。こんなこと、きっと一生ないでしょう。ものすごく嬉しいです。24番 (KONDO RACING) が無交換だったのを見た時、うちの作戦、バクったなと思いましたよ!」



#### 折目遼

「このレースウィークは組んだプログラムが、すべてハマったように思います。スタート直後は僕ら、タイミングモニターから見られなかったのが、谷口さんが順位を落とした時は心配しましたが、あとで理由が分かってホッとしました。追い上げてくれたから、僕もアウトラップを頑張りました!」